



日本防災士会広島県支部会報



第6号 平成21年2月3日

日本防災士会広島県支部活動報告

【活動報告】

報告1：「～自助・共助・公助の連携～」つなぐ

- 「防災とボランティア週間」防災活動報告会 -

日時：1月17日13時30分～17時

場所：中国地方整備局太田川河川事務所3階会議室

参加者：新本・渡邊・楠田

主催：中国地方防災研究会 共催：(社)中国建設弘済会 後援：広島県、広島市

国土交通省中国地方整備局主催で「防災とボランティア週間」にあわせ、広く国民に災害時におけるボランティア活動や自発的な防災活動の重要性を啓発し、自然災害に対する備えの充実を図ることを目的とした取り組みの一環として、大学・行政・民間等の防災関係者、一般市民を対象とした防災活動報告会が開催されたので聴講した。

【第1部 防災活動報告】

1 「女性の視点から安全・安心のまちづくりを考える」

呉・ウイ・カメリア 大野喜子(以下、敬称略)

「女性」、「介護・福祉」、「平和」、「防災」などについて、女性の観点での学習会や講演会などの企画について多く手がけてられており、昨年広島市で開催された「日本女性会議 2007 ひろしま」の報告をはじめ、呉市を中心とした女性の視点から安全・安心のまちづくりを考える取り組みが紹介された。報告のまとめとして、「いつ・どこで起こるか分からない」災害に対処するためには・・・

- 1) 住んでいる地域での取り組みが重要であること
- 2) 一人ひとりの立場できちんと意見を主張すること。
- 3) 街づくりとして「コミュニティーの復興なくして町の復興はない」

ことを強調されていた。

2 「災害」 - H11.6.29から学んだこと - 河内地区民生委員・児童委員協議会

西本弘志、佐藤千里
川本里美、井戸薫子

4名の方それぞれが、【平成11年6月29日広島豪雨】時の体験談を、災害の様子を交えながら説明され、次の5点が重要であるとコメントされた。



- 1) 日常生活の中で隣近所と良い関係を築いておく
- 2) 情報を早くキャッチし、これを速やかに正確に伝える訓練をする
- 3) 日頃から家族間で避難場所、帰路、連絡方法等災害時の行動について話し合っておく
- 4) “これから起きるであろう”状況を早く察知し、判断する力を持つ
- 5) 防災対策と危機管理体制の必要性を地域全体で共有し、機動力と実働性のある訓練を重ねる

河内地区民生委員・児童委員協議会では、今後もこれらの苦い体験談を多くの人に聞いてもらい、“日頃からの隣近所の良好な関係作り”、また、“防災の重要性”について「語り継いで行く」ことを、まとめとして強調されていた。

3 「防災教育の取り組みとその効果」

(社)建設コンサルタンツ協会中国支部 藤本睦

平成17～平成20年に実施した17件の出前講座の事例紹介(広島市亀山公民館、広島市湯来東小学校、広島市清和中学校・・・など)を中心に、「災害多発地域での防災意識の啓発・高揚」および「防災から“減災”へ～特にソフト対策の推進について～」についてプレゼンテーションされた。

高齢者向の講習会では、「土砂災害の概要」、「ハザードマップ作成」、「警戒・避難について」を説明し、出来るだけ文字を使わずに写真と図を多く使うことが必要だということを強調された。

一方、子供達への防災教育では、わかりやすい授業を基本に、「土砂災害の概要」を説明した後は「防災クイズ」を取り入れる工夫が必要であることや、「ハザードマップ作成」や「避難訓練」を取り入れるなど、“一緒に学ぶ感覚で楽しく進めること”がコツとのコメントがあった。今後の課題として、

- 1) 「土砂災害」だけでなく「地震災害」も追加すること
- 2) 現地を「見る・調べる」教育を取り入れる
- 3) 官公庁、消防、自主防災組織、NPO、大学、学会などとも連携を図る必要がある

の3点を強調されていた。

4 「だいじょうぶ？母なる佐波川防災訓練」

佐波川流域防災訓練実行委員会 斉藤清子

平成20年7月21日に開催された「佐波川流域防災訓練」in小野地区についてDVDを交えて紹介された。この訓練では、“防府市広報車等による防災情報伝達”、“破堤浸水からの避難行動（聴覚障害者の参加）”、“避難所運営訓練”、“災害図上訓練による避難行動検証”、“ハザードマップに関する意識調査”など、さまざまなプログラムを組み合わせた訓練だった。

参考：防府防災ネットワーク推進会議HP

<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~takimoto/boubou/index.html>

【第2部 グループ討議】

「つなぐ」「つむぐ」「つづける」の3つの「つ」毎に3班に分かれて意見交換が行われた。

つなぐ：防災・減災は人、防災知識も伝承

ファシリテータ：（防府/防災ネットワーク会議）山崎隆弘

最初に、「民間から公務員に求めること」、「公務員から民間に求めるもと」をラブレターに書いてくださいとの話でグループ討議が始まった。

KJ法を用いて「ブレン・ストーミング」で出されたアイデアや意見をカードに記して、ファシリテータが参加者の意見をグループ化していき、小グループから中グループ、大グループへと意見を図解した。

その作業の中で「“防災・減災”は人・防災知識も伝承」のキーワードが持つ意味や防災知識を伝承していくためには、どうすればよいのかについての解決に役立つヒントやひらめきについて意見交換を行った。

楠田は「防災気象情報を民間の人達に詳しく見て欲しい」とラブレターを送ったところ、民間の方々は「ほとんど見ていない」とのつれない返事が返ってきた。現実には予測以上に厳しいことを痛感した。

しかし、その必要性を丁寧に説明して理解が得られるところまで話を持って行くためにはどうすれば良いのかを考えるいい機会となった。



講師の山崎隆弘氏



民間の方と公務員とのラブレターの交換

つむぐ：防災・減災は生活の知恵、温故知新

ファシリテータ：（中国地方防災研究会） 古川智

本グループでは、「防災教育の今後」について議論がなされた。

“現状は民間企業がボランティアで行っているが、要望が多くなり、ボランティアでの限界が生じる”、“しかし、行政としては、このような活動に関してなかなか予算をつけにくい”など、【もっとやるべきだが・・・どのようにしたらよいか分からない】など相互に苦渋をなめるような意見交換が行われた。

その他の意見として、「建設コンサルタント、地元住民、行政」がコラボレーションした【防災教育】は重要であり、“それぞれの得意分野で、知恵を出し合いながらの教育”を行うことが、効果的であるとの意見が出された。

その他、

つづける：続けることこそが、防災・減災

ファシリテータ：（中国地方防災研究会）方山義彦

のグループ討議がなされた



第一部 防災活動報告 参加団体の概要

<p>呉・ウイ・カメラ</p> <p>(財)広島県女性会議主催「ひろしま女性大学」の呉地区同窓会として1996年発足。39名で構成。会員相互に学びあい、高めあうことを目的とした定例会を開催する他、呉市内外へ広く呼びかけて男女共同参画の推進を目的とした講演会やシンポジウムを実施。</p>	<p>(社)建設コンサルタツ協会中国支部</p> <p>(社)建設コンサルタツ協会は、魅力ある(Attractive)、技術を磨く(Technologically Spited)、独立した(Independent)知的産業を目指して活動している公営法人です。最近では、プロフェッショナル集団としてその技術的知見を国民に発信する活動として、「専門家としての社会貢献活動」を進めている。</p>
<p>河内地区民生委員・児童委員協議会</p> <p>河内地区を見守る団体。民生・自衛活動を続ける傍ら、互れまい6、29集会和勤行って平成12年から毎年数回を開催。また被災者だけにしか語れぬ語り部を続ける。6、29家雨の実形、悲傷な味びが聞こえる。6、29の語り部の会は回を重ねて6回を観える。</p>	<p>佐波川流域防災訓練実行委員会</p> <p>市民と行政が協働した実行委員会により、市民の手づくりの避難訓練が中国地方で初めて実施された。災害時要援護者も参加し、より現実的・実践的な訓練として、これまであまり例のない避難訓練を実施した。</p>